

諫早出身の日本浪漫派詩人

伊東静雄

1906-1953年
(明治39～昭和28)



明治39年長崎県
諫早町(現諫早市)
生まれ。昭和4年京
都帝国大学文学部
国文科卒業後、雑誌
「呂」「コギト」「日本

浪漫派」などに詩作品を発表し、昭和10年
処女詩集「わがひとに与ふる哀歌」をコギ
ト社より発行し詩壇の注目を浴びまし
た。大阪で旧制中学、高校の教壇に立ち、
平成20年にノーベル化学賞を受賞した下
村脩博士も教え子の一人です。

《郷土ゆかりの作品》
『帰郷者』『海水浴』『咏唱』
『有明海の思ひ出』『鶯』『なれとわれ』『螢』

菜の花忌

諫早が生んだ詩人・伊東静雄を偲んで、毎年3月最終
日曜日に、諫早公園中段の伊東静雄詩碑前で開催され
ています。ビール瓶に生けられた菜の花が開催回数分
だけ碑前を彩ります。



手にふるる野花は
それをつみ
花とみづからと
ささえつつ
歩みをはこべ

「そんなに凝視める
な」の一文。昭和14年
「知性」12月号に発表。
書筆は友人で詩人の三
好達治。詩碑は、昭和
29年11月に諫早公園
に建立されました。

なれとわれ

伊東静雄

新妻にして見すべかりし
わがふるさとに
なれを伴ひけふ来れば
十歳を経たり

いまははや ^な 汝が傍らの
^{わが} 童さび愛しきものに
わが指さしていふ
なつかしき山と河の名

走り出る ^{あこ} 吾子に後れて
夏草の道往く ^{なれとわれ}
歳月は過ぎてのらに
ただ老の思に似たり

「なれとわれ」は昭和17年発表、昭和18年刊行第三
詩集「春のいそぎ」に収録。昭和17年、諫早にはじ
めて妻子を連れて帰郷したときの作品で、ふるさと
と諫早を想う心境が感じられます。

咏唱

伊東静雄

この蒼室のための日は
静かな平野へ私を迎へる
寛やかな日は
またと来ないだらう
そして蒼室は
明日も明けるだらう

「咏唱」は昭和10年刊行第一詩集「わがひとに与ふる
哀歌」に収録。詩碑は、昭和62年11月に鷲崎交差
点角の「鷲崎の辻」に建立されました。



● コースに関する問い合わせ先

2018年3月

諫早市 商工観光課 Tel.0957-22-1500 Fax.0957-22-2462

● 新たな魅力を発見したら、こちらまで

(一社)諫早観光物産コンベンション協会

Tel.0957-22-8325 Fax.0957-22-8354
www.isahaya-kankou.com



伊東静雄賞

昭和初期、彗星のように現れ、高
雅・清純な叙情作品を幾多残し、日
本の詩界に足跡を刻んだ伊東静雄
の詩業を顕彰し、文学の振興と豊
かな芸術文化の高揚に資するため、
平成2年に制定されました。毎年、「菜の花忌」終了後
に表彰式が開催され、国内外から1000通を超える応募
の中から優れた現代詩を示した詩人に賞が贈られます。



伊東静雄研究会

毎月1回、諫早図書館で研究会
を実施。毎年4月中旬には諫早つ
つじ祭り開催にあわせ、一般向きに
詩の朗読や解説などを行う朗読会
を開催。



伊東静雄ゆかりのコースの観光ガイドも承ります。ガ
イド内容等は要相談。ガイド希望日の3日前までに、諫早
観光物産コンベンション協会へお問い合わせください。

諫早出身の漢詩人

野口寧齋

1867～1905年
(慶応3～明治38)



慶応3年諫早生ま
れ。佐賀藩諫早領の
藩士から明治政府
の官僚になった父
に伴われて幼少期
に上京。父の影響で

漢詩を始め、若くして詩壇で頭角を現し、
政治家の伊藤博文や軍人の乃木希典らを
指導するなど「漢詩中興の祖」とたたえら
れました。明治36(1903)年から漢詩雑誌
『百花欄』を発刊し、漢詩の振興を図りま
した。20代で病を発症し、病床で詩作を続
けながら38歳で亡くなりました。

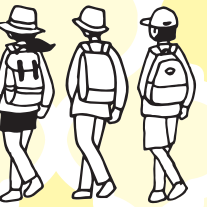
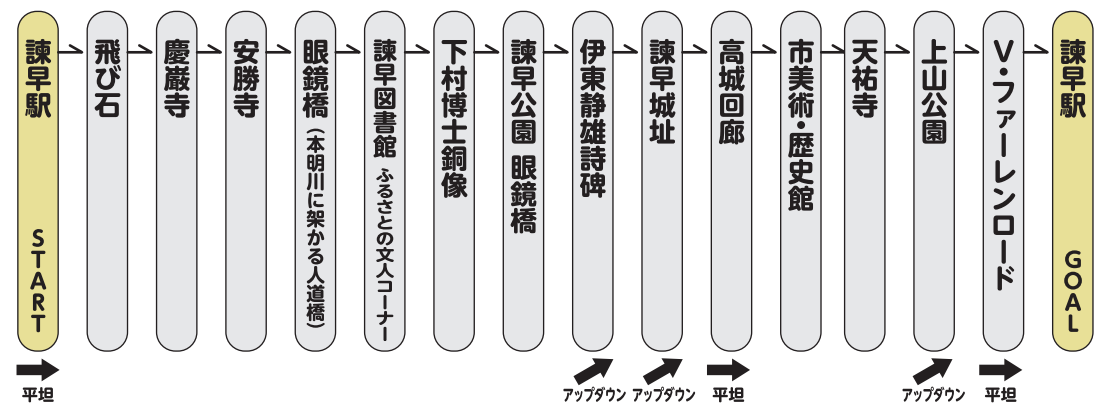
古里での青少年教育の振興のため、自
身の蔵書を寄贈し、現在の諫早図書館の
前身となる「諫早文庫」を創設しました。

見どころ
慶巖寺、安勝寺、天祐寺
など

おすすめの季節
春・秋

新日本歩道紀行100選

テーマ: 文化の道 スタイル: タウンウォーク・街歩き 所要時間: 約3時間 距離: 8km



日本浪漫派詩人伊東静雄が詠んだ
高城回廊を訪ねるみち
風と光と青葉が薫る文学・芸術・歴史の散歩道

諫早中心部の歴史文化あふれる道です。
● 3つの寺院／慶巖寺、安勝寺、天祐寺
● 3つの眼鏡橋／諫早公園内、ミニ、本明川の人道橋
● 3つの眺望／諫早城址、上山公園展望台、本明川
など、まちなかのパワースポットを巡りましょう。

1 飛び石

江戸時代、諫早の中心を流れる本明川は毎年のように氾濫し、川にかけてあった橋もそのたびに破損、流失していました。そのため、飛び石は重要な交通手段でした。



2 慶巖寺

箏曲「六段の調」発祥の地。諫早家家宝の鯉骨が納められています。33体の観音像が彫刻された磨崖仏三十三観音もみどころです。



3 安勝寺

慶長15年に建立された領内真宗総道場。厳かに建つ鐘楼は、諫早に初めて時を告げた「時鐘」で、昭和19年までの220年余の間、一日も休むことなく時を知らせました。



見どころ 紅葉、いちよう

4 眼鏡橋 (本明川に架かる人道橋)

天保10年(1839)に当時の領主・領民が永久不壊の願いを込めて、本明川に二連アーチ式の石橋を架橋。昭和32年7月の諫早大水害の後、石橋は諫早公園に移設され、もとのところに人道橋として鉄橋が架橋されています。



5 諫早図書館 ふるさとの文人コーナー

諫早図書館1階には郷土の詩人や作家などの作品や遺品等を展示したコーナーがあり、伊東静雄の作品も数多くあります。



6 下村博士銅像 (県立諫早高等学校正門)

平成20年ノーベル化学賞を受賞した下村脩博士は、長崎県立諫早中学校(現在の諫早高等学校)の卒業生です。



諫早つつじ祭り

時期:毎年4月中旬
場所:諫早公園

昭和27年から続く歴史ある祭り。諫早公園のつつじは、大正時代に市民のボランティアで植えられ、見頃を迎える頃に様々な催しが行われています。



7 諫早公園 眼鏡橋

全山が国の天然記念物「諫早山城山暖地性樹叢」に指定されています。眼鏡橋は、石橋では日本で最初に国の重要文化財に指定され、諫早大水害後、現在地に移設されました。公園内には移設の際に模型となった1/5縮尺のミニ眼鏡橋もあります。



見どころ 桜、ツツジ、菖蒲、ホタル

8 伊東静雄詩碑

諫早が生んだ詩人・伊東静雄の詩碑が諫早公園中段にあります。伊東静雄を偲んで、毎年3月最終日曜日には菜の花忌が、4月中旬には諫早つつじ祭りで朗読会が開催されています。



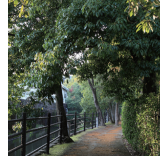
9 諫早城址

戦国時代に伊佐早地方(諫早市)を初めて統一した西郷尚善の山城址です。山頂からは諫早平野が一望でき、城址には大クス群があります。城址の案内看板を見ながらの歴史散策もおススメです。



10 高城回廊

市役所、高城公園、諫早公園周辺を一周する約1.3kmの光と水と緑の散策路です。桃山様式の池泉廻遊式庭園の御書院や太鼓橋、月見灯籠は昔を偲ばせます。



御書院 10:00~16:00

3~5月、9~11月は、月曜日が休み。他の月は、土・日・祝日に見学可能。(※諫早高校の行事などで臨時的に見学できない日もあります。)



11 市美術・歴史館

山城址や眼鏡橋、御書院に囲まれ、耳を澄ませば歴史の息づかいが聞こえてきます。「見て」「感じて」「学んで」ぜひ諫早の美術と歴史をあなたの目線で見つけてください。



12 天祐寺

諫早家の菩提寺。大門から重厚な山門にかけての参道は、新緑や紅葉など四季の彩りが美しく、また、奥の院に至る参道にはエキゾチックな石仏があり、景観に富んでいます。



見どころ 紅葉、いちよう

諫早万灯川まつり

時期:毎年7月25日
場所:本明川一帯

昭和32年の集中豪雨での犠牲者を追悼するまつり。慰霊の思いを込め、本明川に眼鏡橋イルミネーションと23,000本の万灯を点し、2,000発の花火を打ち上げます。



13 上山公園

「森林浴の森日本百選」や「日本の都市公園百選」に選定されています。展望台では360度のパノラマが広がり、散策道ではウォーキングやジョギングが行われるなど、マチナカの森林スポットとなっています。



14 V・ファーレンロード

V・ファーレン長崎のリーグ観戦は、諫早駅から県立総合運動公園トランスコスモスタジアム長崎まで、この道を通って25分。ヴィヴィくんマンホールはいくつあるでしょう?!



立ち寄りスポット

クロンプリンツ
ドイツ菓子店
諫早市八天町4-31 0957-23-8335

うなぎ割烹 北御門
諫早名物 楽焼うなぎ
諫早市八天町4-3 0957-22-0167

水月楼 お食事処本明
諫早名物 楽焼うなぎ
諫早市八天町4-20 0957-23-2150

福田屋
諫早名物 楽焼うなぎ
諫早市栄町1-13 0957-22-0101

オッコベージュ
図書館カフェ
諫早市東小路町6-30 0957-47-5851

魚荘
諫早名物 楽焼うなぎ・日本料理
諫早市宇都町3-41 0957-22-0039

レストラン・プルニエ
フレンチレストラン
諫早市宇都町3-35 0957-24-3939

長崎清水21
かまぼこ専門店
諫早市宇都町3-50 0957-21-3000

竹野鮮魚店
鮮魚店(魚屋のまかないランチ)
諫早市永昌東町3-13 0957-23-1795

駅前ワインカフェ bar-ba
カフェ・バー
諫早市永昌東町3-13 0957-46-3886

諫早名物「いさはや楽焼うなぎ」

かつて諫早の清流・本明川で採れた良質のうなぎを使った美味しいうなぎ料理は、江戸時代より伝統を持つ諫早の名物料理として知られてきました。

諫早のうなぎの蒲焼は「焼き」のあと、二重底になった京都・楽焼の独特の器を使い、仕上げにその器ごと蒸し、ふっくらととろけるような舌触りが特徴です。



日本浪漫派詩人伊東静雄が詠んだ
高城回廊を訪ねるみち
風と光と青葉が薫る文学・芸術・歴史の散歩道